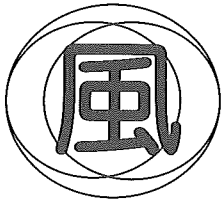


関西いのちの電話

こころがつかれたら…06-6309-1121

自殺予防いのちの電話(フリーダイヤル)0120-738-556
毎月10日 午前8:00～翌日午前8:00



「聴くことは愛すること」

関西いのちの電話 理事長 イ李 フォン清 イル一

この度、今村さんより「関西いのちの電話」の理事長を引き継ぐことになり、6月5日に持たれた「日本いのちの電話連盟」の第37回定期総会に出席しました。その際、日本いのちの電話連盟から新しく出版された『自殺予防いのちの電話—理論と実際』をいただきました。この冊子に記されている歴史を読みながら、日本いのちの電話連盟の結成(1977年8月)に、関西いのちの電話から私も参加した記憶が蘇ってきました。

当初5つのセンターではじまった「日本いのちの電話連盟」は、結成以来30数年にして、50センターが加盟し、7500人のボランティアを数える組織に成長しました。かねがね私は、いのちの電話は、日本においてボランティア運動として根付いた最も良いモデルではないかと思っています。何故、いのちの電話の働きがこのように幅広く展開され

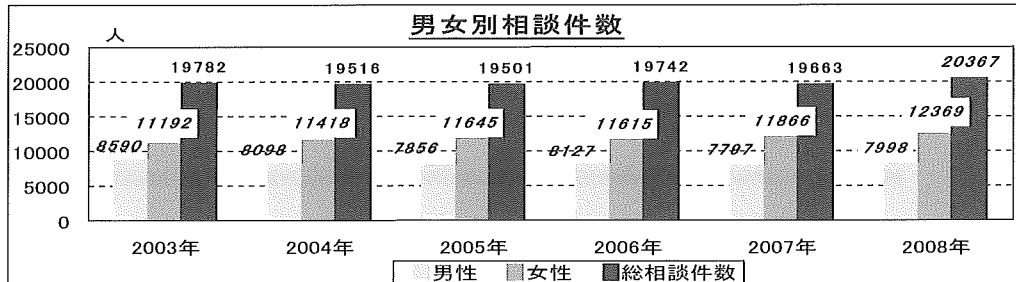
るようになったのかと考える時があります。その答えを適確に言い表すことには無理がありますが、その一つは、自殺予防という社会的なニーズに対して、電話を通して「いのち」をつなぐ、「傾聴」ということにあったのではないかと思います。

先日、長田弘さんの詩を読む機会がありました。“聴くことは愛することである”(『世界はうつくしいと』)という詩のワンフレーズを読み、ハッとさせられました。ここにいのちの電話のエネルギーの源がどこにあるのか示唆されているように思いました。

関西いのちの電話は、発足以来36年目を迎えています。新しい時代に必ず新しい課題が出てきます。それを見据えながら、一步一步いのちと向き合うネットワーキング社会を、皆さまと共に紡ぎたいと思います。

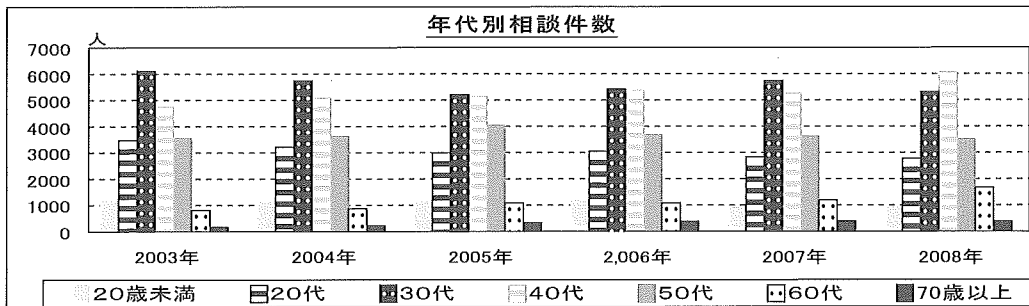
関西いのちの電話「受信状況」

①男女別総件数（2003年～2008年）



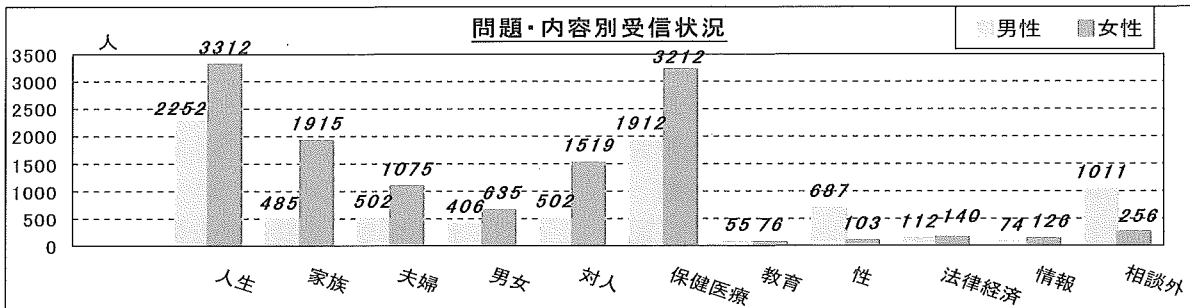
* 関西いのちの電話の相談件数は2008年には20,000件を超えている。
 * 男女別では男性が40%、女性が60%と女性からの相談が多い。

②年代別相談件数（2003年～2008年）

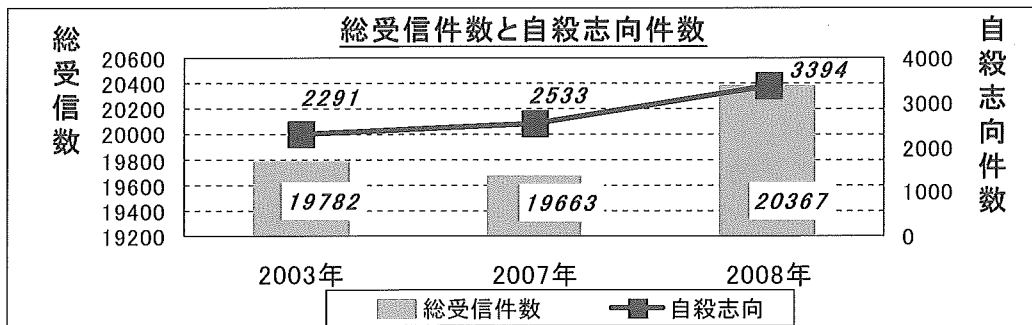


* 2007年までは30歳代が多いが、2008年では40歳代が一番多く相談をしている。

③問題内容別受信状況（2008年）



④総受信件数と自殺志向件数（2003年と2007年、2008年の変化）



* 2008年は相談件数が増え、自殺志向件数も大きく増加した。

43期相談員認定式・永年活動感謝式行わる

3月14日の認定式・感謝式において、43期36名が認定を受け、継続10年(17名)・20年(6名)・30年(5名)の方々へ感謝状が授与されました。30年継続の方のメッセージをお届けいたします。

【いのちの電話と共に30年 A.Eさん】

感謝式のお知らせを頂いて、「えっ、30年」と驚きました。振り返ってみれば多くいた同期の人達も4人になっています。

私にとって、人生を電話と共に過ごせたことは救いでした。どんなに辛くても電話に入って人様の悩み苦しみを耳にすると、苦しみを分かち合え助けられたような気がします。これからも聴くことに徹して行くことしか私にはできません。悩みを抱えておられる方々に、いつまでも苦しみは続かない、少し角度を変えてみられたら必ず光が見えてくるということを申し上げたい気持ちです。

【受信暦30年に思う E.Nさん】

私は戦時中4歳の夏、7人家族の中から祖母と

二人で父の故郷に疎開し10年間過ごしました。

「教育勅語」を耳にした最後の国民学校一年生の一人です。凄まじい戦後のひもじさを余儀なくされた田舎で「口減らし」を悟った復員者が牛小屋で首吊り自殺を。また、同じ疎開者で一歳上の女の子の母親が線路に飛び込み即死しました。哀しく侘しい野辺の葬列を見送った記憶は生々しく、今でも心に刻まれた幼い日の思い出です。

成人してから福音書の中で“マリアとマルタ”の物語や“よきサマリア人”のたとえを学ぶうちに上のような記憶が甦り「いのちの電話」に一兵卒として参加し続けています。



45期電話相談ボランティア養成講座始まる

45期電話相談ボランティア養成講座が4月18日高石市の大阪府立羽衣青少年センターで始まった。今年度の受講者は56名(男10名女46名)である。

開講式では、齊藤理事より「いのちの電話」の由来、修練の必要性などに触れながらの開会の挨拶、養成委員長よりの励ましの言葉が述べられた。次いでオリエンテーション、小休止の後、体育館で軽い体操や交流ゲームで、今日初めて出会う人同士の和やかな触れ合いがなされた。

その後、5グループにわかれての体験学習のセッションが2日間行なわれ、これを皮切りに2年間の養成講座が始まった。



共同募金会に感謝

大阪府共同募金会より2008年度助成金として176万円いただき、これらは事業費支出(343万円)に充てられました。この広報誌も同2009年度助成金によって発行されています。

募
金

24時間・365日「眠らぬダイヤル」として相談活動を行っています。

皆さまのご支援が いのちをつなげ、電話をつなぎます
活動資金が必要です。いのちの電話の活動をお支え下さい。

口座名義：社会福祉法人 関西いのちの電話 理事長 李 清一

口座番号：郵便局 00990-3-68480

三井住友銀行 十三支店 (普) 998829

※社会福祉法人へのご寄付は税制上、優遇されます。

傾聴と共感(2) 「関心を持つ」

「さびしいのです…」 「姉からこんなことを言われたのです。おかしいと思いませんか?」「眠れないんです」「どうしようもないのです。どうすればいいのでしょうか?」などという電話がかかってきます。

聞き手は、はじめは耳を傾けてしっかりと聴こうとするのです。ところが話しの内容がさびしさを紛らわすための世間話になってきたり、家族に対する愚痴が延々と繰り返されたり、とぎれとぎれの話しが続いたり、どうすればいいのかと問うばかりで堂々巡りのやりとりになってくるのです。

聞き手は、うんざり、イライラする気持ちが起こってきて、だんだんと相手の話が聞けなくなります。そして、頭のなかでは、どのようにこの電話を切ってもらおうかと思いつくようになってきます。

聞き手は相手の話しに集中できなくなってくるのです。受話器から声は聞こえているのですが、聞き流している感じで、応答も少なくなり、生

返事をするようになってくるのです。すると、かけ手はその様子をいち早く察知し、新しい応答を試みます。

突然、「死にたい」といって、聞き手の注意を喚起する。「私の話を真剣に聴いているのですか?」と突然に怒り出す。果ては、「いのちの電話の相談員は聞くばかりで、何も答えてくれない。それでも相談員なんですか!!」と非難。

こちらからすると、聞くに堪えない話しであっても、かけ手は自分のことに関心を持ってほしい、電話で繋がっているわずかな時間でも、誰かが自分の話しにしっかりと耳を傾けてほしい、いやそれ以上に自分の存在に関心を持って関わってほしいと訴えているのです。

傾聴の基本は、相手の全人格に関心を向けることです。かけ手がその日常で、いかに周りから疎まれているかを想像し、かけ手の在り方に関心を向け、その存在をありのまま受け入れる態度で応答をすることなのではないでしょうか。

(長尾文雄)

社会福祉法人 関西いのちの電話 第14回チャリティーコンサート

NEW KOTO 箏の新しい世界 ★ 片岡リサ 箏 リサイタル ★

日時：2009年8月7日(金) 開演18:30(開場18:00)

場所：いずみホール(大阪市中央区城見1-4-70/JR大阪城公園駅より徒歩8分/駐車場完備(有料))

チケット：前売り¥2,000、当日¥2,500円(未就学児童のご入場はご遠慮ください)

チケット取扱：いずみホール チケットセンター(TEL 06-6944-1188)、関西いのちの電話事務局(TEL 06-6308-6868)

出演：片岡リサ(箏・歌)、西本 淳(サクソフォン)、日下部吉彦(解説・司会)

プログラム：宮城道雄/春の海(箏・サクソフォン)、八橋検校/六段の調(箏独奏)、新井 満/千の風になって(箏・歌)
阿久 悠の世界メドレー(箏・サクソフォン)、ヴィヴァルディ/ヴァイオリン協奏曲(箏ソロと合奏団)ほか

電話相談受信状況

受信月	4月	5月	6月
受信件数	1,762件	1,753件	1,716件
相談員数(延)	464人	465人	473人

編集後記

1年で最も紫陽花の似合う気候となりました。今年度7月号からは広報誌担当が、全員新人となりスタートをきりました。“新しい酒は新しい革袋に”という言葉もありますが、一方“古壺新酒”という言葉もあります。

まずは、着実に7月、12月、4月の発行を目指したいと一同思っておりますので、どうぞよろしくお願いたします。

社会福祉法人 関西いのちの電話

事務局 〒532-0028 大阪市淀川区十三元今里3-1-72

TEL 06-6308-6868 FAX 06-6308-6180

発行人 李 清一 編集 広報委員会

ホームページ <http://www.kaind.net/>